

市公連だより

公民館紹介

笑顔あふれる

公民館であるために

大里公民館

館長 山岸 一夫

大里は荒川右岸、水に恵まれた肥沃で豊かな自然環境にあり、人口約8200人、世帯数約3600を抱える地域です。

大里公民館は、昭和55年に設立され、現在の大里行政センターに隣接している大里コミュニティセンター内に置かれています。

年間計画の柱としましては広報紙の発行、人権学習、敬老会、文化祭、小学生から成人対象講座等幅広い世代が参加できるものとなっております。人生100年時代と言われておりますが、健康維持、増進を目指した事業を始めまし

たので御紹介します。

一つは「ぶらり」です。

「ぶらり」とは、身近な地域をウォーキングすることで、歩きながら地域文化や自然に触れ、新たな発見に出会えうびにつながります。



「ぶらり」根岸家長屋門

もう一つは2020年東京パラリンピックの競技にありましたボッチャというスポーツを取り入れました。なかなかの盛り上がりで、意欲的に、特に女性がチャレンジしています。昨年度は用具を1セット追加し、毎月第4月曜日を「ボッチャの日」と定め実施しております。当日の参加は自由で毎回十数名が来られ、

第37号
 発行 熊谷市公民館連合会
 編集 熊谷市長吉野武治
 発行 熊谷市公民館
 電話 048-523-0895

2面使用している状況です。

二つの事業は参加申込みをしなくても当日の都合で参加いただける自由参加型です。今後とも地域の方が気軽に楽しめるよう努めてまいります。



ボッチャの様子

技術の伝承と地域交流 を目指した公民館

太田公民館

館長 新井 英一

太田公民館は熊谷市の北西で太田小学校の道路を隔てた北西に位置しています。近くには、太田神社や老人ホーム

の「熊谷めぬまの郷」があります。

太田小学校の校歌の歌詞には「山脈は山脈は：」のごとく、男体山、赤城山、浅間山が見渡せ、二番の歌詞には「千町田の千町田の：」のごとく広大な田が広がっています。この太田小学校は今年度で閉校となり、来年度から「道の駅めぬま」の近隣の小学校が妻沼西小となり統合されます。

そんな自然豊かな太田は人口約3100人、世帯数約1370軒で、15の自治会で組織されています。

太田公民館は運営委員30名がおり、各種行事のスタッフとしてお手伝いいただいております。

そして、自治会や太田小学校区連絡会と共催で小学校の校庭や体育館をお借りして、カラオケ芸能の集い、地区民運動会、グラウンドゴルフ大会、ボーリング大会、防災訓練などの行事を行っております。また、公民館には厨房設備があり、地元から講師を招き、カリカリ梅作り、炭酸ま

んじゅう作り、こんにやく作り、キムチ作り、みそ作りなどの料理講習を行っております。

また、地元の太田神社のしめ縄作りの稲わらを譲り受け、長老の技術者による、しめ飾りやしめ縄作りなど、地域に受け継がれてきた技術を絶やさない為にも、体験し伝承し実践講習をしています。体験することで技術の伝承と地域の交流を深めていきたいと考えております。

さらに館外研修も毎年開催しており人気の行事の一つです。



しめ飾り・しめ縄作りの様子

公民館の課題

熊谷市公民館連合会会長 吉野 武治



ら比べると講座等において公民館利用人数の減少が見受けられます。また、各クラブにおいても高齢化等により一部廃部や会員の減少化が進んでおります。

今年度会長職に就任致しました。職の重さをひしひしと痛感しております。皆様の御支援と御協力をいただきながら熊谷市公民館連合会を前に進める考えであります。

また、輪番により一年間、大里地区公民館連合会の会長も仰せつかりました。

昨年度までの荻野会長及び会員の皆様には当会運営に御尽力を賜り感謝を申し上げます。新会員の皆様には新しい意見を発していただけるようお願い申し上げます。

昨年五月に新型コロナウイルス感染症は二類から五類に変更されました。

公民館活動はコロナ以前に戻りつつありますが、以前か

地域づくりの拠点として

熊谷市教育委員会教育長 野原 晃



公民館連合会の皆様には日頃から公民館活動の推進に御尽力をいただき、深く感謝申し上げます。

令和6年度、貴連合会では新たに吉野会長さんが就任なさいました。

新会長の御指導のもと、公民館相互の連携を深め、各地域での公民館の活動がより活性化されてゆくものと確信をいたしております。

また、昨年度で会長職を退かれた荻野館長さんには、貴連合会での活動を通し、コ

ナ禍で縮小した公民館活動の復活に多大な御尽力をいただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

さて、昨今は人生100年時代と言われ、生涯学習という言葉が一段と重みを増していると感じます。

この生涯学習活動の地域拠点として、公民館は子供から大人まで様々な世代の人々が自由に集い、学べる場所です。

これは個人の学習ニーズを満たすことに留まらず、「ともに学ぶ」活動を通して、人同士の繋がり・地域の繋がりを育むことのできる大切な「地域づくりの拠点」と考えています。

地域での公民館への期待も大きくなっています。皆様のこれまでの創意工夫にあふれる公民館運営に敬意を表すとともに、新たな視点での活動等、一層の御活躍を期待しております。

結びに貴連合会、各公民館の皆様への御発展を祈念いたしまして御挨拶いたします。

新任館長挨拶

籠原公民館長

田村 悦朗



四月より籠原公民館長に就任致しました田村悦朗です。

私は、五年程公民館主事を経験し、今回地域の発展に微力ながら役に立てればと思ひ引き受けました。

ここ何年か公民館活動は新型コロナウイルスの脅威にさらされ厳しい制限がありました。昨年より規制緩和されましたが、利用状況はいまだ完全には戻らない状態です。

公民館役割の主である生涯学習の場、人と人との交流の場、これを如何に充実させ利用しやすくするかが課題であると考えます。

職員一同邁進して参りますので御支援、御協力をお願い申し上げます。

大麻生公民館長

新井 繁男



この四月から公民館地域館長に就任いたしました。昨年度までの公民館地域主事の立場から考えますと身が引き締まります。

令和元年度末からコロナ禍の脅威にさらされ、公民館行事の中止や利用サークルの施設使用制限などもあり、利用者の減少やサークルの解散などもありました。公民館の行事を支えてくれた経験ある長寿会の皆様の高齢化が進み、行事運営の在り方についても地域の皆さまからいろいろ御意見をいただいているところです。

館長として自ら学びながら、地域の皆様の御支援御協力をいただきながら、利用しやすい施設となるよう精一杯努めて参ります。

別府公民館長

鈴木 隆一



新任の公民館長になりました鈴木です。公民館職員としては八年目になり、公民館行事や学習講座、地域の諸々の活動にも慣れてきました。

今年も公民館は、自治会とは地区体育大会、地区防災訓練などの事務局として共催し、敬老会も事務手続きや運営の協力をします。自治会が後援する、別府秋まつり実行委員会にも事務局として参加します。

校区連絡会とは、星座観望会、子育て応援サロンの活動に、共催団体として職員が参加します。

また、前館長を中心とした公民館の花壇作りでは、春にはチューリップやパンジーに続いてアイリスやオルレアなどが花盛りとなり、夏から秋、冬の初めまで色とりどりの花

が咲く、花の公民館に成長してきました。今年も地域の方々の御協力で、花の咲く公民館活動が進んでいます。

男沼公民館長

中里 友之



令和六年四月一日付けで男沼公民館長に就任致しました中里友之です。よろしくお願ひいたします。

公民館は、地域住民の皆様が安心して学べる生涯学習の場所及び地域コミュニティの場所です。地域の交流が減少している今日、地域の方々が公民館を気軽に利用することができ、地域の方々が触れ合う機会を広めて、楽しく学習できる講座を実施したいと考えています。

また、交流を深め充実した公民館活動になるように地域の皆様のお力をお借りしながら、一緒に考えて男沼地域の発展のために努力してまいります。

ます。御支援・御協力をお願いします。

妻沼中央公民館長

塚田 香織



四月一日に、妻沼中央公民館長に就任いたしました塚田です。

妻沼中央公民館は、妻沼地域の生涯学習の拠点です。けやき大学をはじめ、各種生涯学習講座や学習グループの学び・集いの場として、また併設する大ホールは、様々なイベント会場として、毎日、多くの方々に御利用いただいています。

今年度は、「公民館で見つけよう、楽しい仲間と充実した毎日」をテーマに、幅広い年代の方を対象に、魅力ある講座の開設や事業を推進します。地域の皆様の交流の拠点となるような、身近で親しみやすい公民館となるよう、職員一同努力してまいります。

中央公民館長

長島 千恵



この度、中央公民館長に就任いたしました。

歴史ある中央公民館長に名を連ねることは、大変名誉なこと、その職責の重さに身の引き締まる思いです。

生涯学習の推進と人づくり・地域づくりの拠点施設として利用者の皆様の多様なニーズに応じた情報を提供し、魅力ある公民館運営の充実を図っていく所存です。

また、地域の活動・活躍の拠点施設として「地域会館」の整備には、地域の皆様の御意見を伺い、必要とするもの、抱える課題を把握し、求められる地域会館の在り方、公民館活動の持続可能性の確保を目指し、職員一同努力してまいります。

皆様には御指導御鞭撻の程、よろしくお願ひいたします。

退任館長挨拶

前籠原公民館長

高田 守康

昨年九月に米寿を迎え、高齢ということもあり、本年三月末、当公民館長職を退任させていただきました。十二年間に亘り、私を支え、本館の諸活動の原動力となった当館スタッフの皆様改めて厚く御礼申し上げます。

喜寿に始まり、米寿に終わったのは、偶然とはいえ、本人には誠に嬉しいことです。

定年退職後、民生委員等で近隣地域と関わっていました。が、当館との御縁は囲碁サークルに入会したことでした。

館長就任後、公民館の役割を再認識し、その目的を達成すべく努めました。コロナ騒動で中断、現在は新メンバーで目的達成努力中です。特に男性諸氏がより多く活動参加いただくことが望まれます。

結びに関係各位に感謝しつつ、退任の挨拶とさせていただきます。

前大麻生公民館長

秋山 宏之

「光陰矢の如し」と申しますが、月日の経つのは本当に早いもので、石垣前館長が病気で退任した後を引き継ぎ、あつという間に十年余りが過ぎ去りました。

最初の何年かは過去の行事を思い浮かべながら一生懸命に取り組みました。ところが、慣れてきたころ新型コロナウイルス感染症の影響で行事を中止したり、縮小したりすることが多くなり、難しい運営となりました。多くの方々の意見を聞き、皆様が納得するように話を進めることはとても大変なことでした。

しかし皆様の御協力により、無事に大役を務められたことを感謝申し上げます、退任の挨拶といたします。

前別府公民館長

新井 守

この度、別府公民館長を退任いたしました。平成28年4月に別府公民館主事に就任し

て、令和2年4月から館長を4年間勤めさせていただきました。地域の活動にほとんど関心のなかった私を、地域住民活動の重要性に目を開かせてくれた8年間でした。主事としての4年間は、自治会連合会との共催事業の事務局として、館長の4年間はまとめ役として、大変忙しく活動してきました。

この8年間を通して、別府地区住民の一人になれた気がします。この間、御支援、御協力をいただきました別府地区の皆様・市公連の皆様から感謝申し上げます。

前妻沼中央公民館長

堀越 利幸

令和3年4月から妻沼中央公民館長として3年間、皆様には大変お世話になりました。

新型コロナウイルス禍の公民館運営を求められた期間となり、利用者数や活動内容を制限したり、ワクチン接種の事務を行うなど、通常の公民館運営では考えられない状況を経験させていただきました。

新型コロナウイルス感染者はまだいるものの、公民館活動は徐々にではありますが以前のように戻りつつあります。このような時期ではありませんが、公民館活動に携われたことに心より感謝申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。

前中央公民館長

根岸 洋子

中央公民館長として2年間お世話になりました。温かい御指導をいただきました地域公民館長をはじめ多くの方々にお礼を申し上げます。

また、皆様の御尽力のおかげでコロナ禍で制限されていた公民館活動が円滑に再開できましたこと、心から感謝いたします。

公民館は、生涯学習の推進と地域づくりの拠点ですが、地域会館等が整備されていく今後は、現状に留まらない組織の強化とともに他分野との連携協働による広範囲な活動により公民館の持続可能性が

確保されると思います。市公連及び各公民館の益々の御発展を祈念し退任の挨拶といたします。

定期総会報告

令和6年5月14日(火)妻沼中央公民館大会議室において、令和6年度熊谷市公民館連合会定期総会が開催されました。議事として、令和6年度の役員案、事業計画、予算案等が審議、承認されました。

【令和6年度役員】

- 会長 吉野武治(久下)
- 副会長 渡辺 正(玉井)
- 副会長 新井弘一(大原)
- 副会長 岩田秀夫(熊谷東)
- 各ブロック長
- 第一 岩田秀夫(熊谷東)
- 第二 前澤保雄(星宮)
- 第三 大澤 清(新堀)
- 第四 瀧澤繁雄(上石)
- 第五 岡 幸江(大幡)
- 第六 新井英一(太田)
- 監事 田代博也(本町)
- 細川末廣(桜木)

※敬称略

ふるさと「星宮」

星宮公民館

館長 前澤 保雄

一、地名の起り

星宮地区は、古くは太田庄忍領で明治二年に忍県に、明治四年十一月埼玉県となり明治二十二年には、池上・下川上・上池守・下池守・中里・皿尾・小敷田の七ヶ村が合併して「星宮村」ができました。この地名については、北斗七星を模して七ヶ村を星にたとえたとも：

地域の中心を流れる古宮用水と北側を流れる星川の合併説から来た名前であるとも：埼玉地名辞典によると、村々に数多くのお宮が星の如く存在していたのでこの地名を付した等の説があります。

二、教育

① 寺子屋教育 ○古宮神社

地元の池上地区・上之・肥塚小敷田等の近在地区に二百

数十名の子弟を持ち、明治五年の学校令施行まで開塾された。



古宮神社 茂木昇師



浄泉寺 鈴木領道師

○浄泉寺

下川上地区を中心に上川上・中条・南河原・星川地区等から約三百人余りの子弟を数え明治十八年から明治三十二年まで十五年間開塾した。

② 学校

明治五年八月三日学制発布により池上梅岩院本堂を校舎として池上学校が開校された。生徒数は池上・下川上・上池守三地区で男九十人、女七十一人、教師五人でした。

・学校沿革

- 明治19年4月1日 開進小学校
- 明治25年7月15日 尋常小学校
- 大正2年3月30日 尋常高等小学校
- 昭和16年4月1日 星宮国民学校
- 昭和22年4月1日 村立星宮小学校
- 昭和30年10月1日 市立星宮小学校



池上学校 梅岩院 初代校長 岸沢惟安

熊谷市の公共施設統廃合計画を受け、寺子屋教育から百七十年 開進学校開校から百三十七年の教育の中心であった「ふるさと星宮」から、学校が消えてしまいました。

「医王寺」

小島公民館 館長 赤石嘉孝

昨年夏、小島公民館の歴史講座で熊谷市史編さん室職員 久保康顕先生に教えていただいたこと及び「熊谷市妻沼小島医王寺の仏像」のリーフ

レットをもとに医王寺について紹介します。

医王寺は小島地区にあり山号・瑠璃光山宝寿院、本寺・高野山龍光院、本尊・金剛界大日如来です。医王寺が現在まで続くもとなつた戦国時代から江戸時代初期について

の小島地区の状況は『新編武蔵風土記稿』（一八三〇年）

によれば「昔は忍城主あるいは古河公方の領分であつたといふが、詳しいことは伝わっていません。徳川家康の関東

入国ののちは徳川幕府領となつた・・・」という記述があります。戦国時代は忍城の成田氏、深谷城の上杉氏をはじめ

館林城、太田金山城、小泉城（群馬県大泉町）と戦国大名

や国人たちが小島地区を取り囲み、家康による開幕後、幕府の直轄地となつています。

戦国時代末期から江戸時代初期に、古義真言宗で総持寺

（群馬県太田市世良田町）の末寺であつた場所に高野山住職、木食宥勢が来住し、一五

九二年、薬師如来を安置し開山しました。地域の多くの人々

から厚い信仰を得たと伝えられています。そして一六〇一年、堂宇が落成し、開基となりました。

医王寺の仏像として、本尊木造大日如来坐像、銅造大日如来坐像が本堂に安置されています。薬師堂に安置されて

いる薬師如来坐像の背面、像底、台座底に墨書銘があり、宥勢について書かれています。

医王寺は開基以来、一六五四年に現在地に移転し、一六九五年、薬師堂が建立されました。一八七三年から一八八

三年には村立小島学校の校舎として使用されました。一九五一年本堂庫裡、一九七九年

薬師堂、地藏堂等の大改修が行われましたが、二〇一一年

の東日本大震災の被害が甚大で、本堂及び薬師堂の大改修が再び行われました。

現在も地区で唯一の寺院としてその役割を果たしています。



学級講座紹介

モネ・セザンヌ・ゴッホ

を目指して

本町公民館

主事 細井 幹夫

本町公民館は館の無い地域公民館です。学習講座は中央公民館を利用して行っています。

現在は健康マージャン教室、健康体操教室、水彩画中心の絵画教室その他に手芸・あみ物講座等があります。今回は絵画教室について紹介させていただきます。

絵画教室は2021年より生涯学習講座の一つとしてスタートしました。講師は中央公民館の「鉛筆デッサン」の講座を担当している塚本あすか先生（朱麦会会員）です。生徒のほとんどが初歩から絵画を勉強し絵を描くことを一生の趣味として続けて行く意気込みで学んでいます。最初は鉛筆デッサンからガラスのコップやウイスキー瓶、コーヒーカーップ等をデッ

サンし、「光と影」の陰影を学びました。さらに各自が自宅に咲いている花を持ち寄り一つのモチーフとして全員で描いたりしています。

また有名な画家であるセザンヌやゴッホそして坂本繁二郎の絵を模写することで色彩の勉強をしました。

尚、教室では本物の画家になったつもりでイーゼルを使用して静物画の作成を行っています。

その後外に出ての風景画にも挑戦しました。近隣の市指定文化財である「星溪園」は風景画には絶好の場所です。天気の良い日に皆で風景画を作成するのは大変気持ちの良いものです。

未だ初心者の方を出ない者達ですが、作品は前年度の公民館まつりでは3パネルに全員の作品を飾らせていただきました。

さらに5月には中央公民館1Fホールにて「本町公民館絵画教室」として全員の作品を一年間の成果として発表させていただきました。

このような機会を通じ皆様目の留まった際はぜひ忌憚のない御批評を頂ければ幸いです。

これからも和気あいあいの教室で自分なりの画を描いていこうと思っています。



《本町絵画教室発表の様子》

「ときめき学級」のご紹介

妻沼公民館

館長 後藤 新一

妻沼公民館は、国宝妻沼聖天山の北側に位置し、妻沼地区31自治会、3298名の皆様の御協力の下、運営協議会員の御尽力の中、定期的に趣味の講座、体育祭、グラウンドゴルフ大会、教育委員会の御協力を頂き、妻沼小、妻沼

南小の高学年を対象に1年に1度、夏休み子ども教室を開催、国宝妻沼聖天山のおちばひろいに協力しております。

また、自治会と公民館が一体となつて様々な地域活動に貢献しています。

そのような中、今回は公民館と妻沼長寿会一体となつて毎月1度、第2又は第4金曜日に開催している「ときめき学級」について、御紹介致します。

令和6年度については、5月開校式・輪投げ大会、6月朝顔教室、7月地域の昔ばなし、9月朝顔教室、10月グラウンドゴルフ大会、11月バス研修、12月しめ縄飾り、1月輪投げ大会、2月ボーリング大会、3月輪投げ大会・閉校式を予定しております。

参加募集方法につきましては、各地域ごとに長寿会の責任者を配置し、その皆様ごとにチラシ配布をお願いし、毎回30名程の御参加をいただいております。

参集された折には、地域の話題、健康長寿の秘訣等の会

話も弾み、地域のコミュニケーションの場の役割も果たしております。



《「地域の昔ばなし」の様子》

最後になりますが、今後も特別学級の充実と活気あふれる公民館活動に取り組んでいきたいと思っておりますので、地域公民館の皆様の御指導と御鞭撻の程よろしくお願い申し上げます。

編集後記

「市公連だより」も本号で37号となりました。皆様の御協力に感謝申し上げます。また、今年度から年間一回発行の体制となりました。今後より読みやすい紙面の作成を心がけてまいります。